



旧東洋紡織工場

所在地 桐生市東 7-3-36

所有者 海道 浩氏

旧東洋紡織工場は、東七丁目の桐生市東スポーツセンターの正門に向かって左の小路に入り込むと、突然、雄大で端正な姿を現す。六連のノコギリ屋根工場であるが、三連が大谷石造り、右の三連が木造である。大谷石造りの方は戦前に建設されたという。昭和22年、キャサリン台風で被害を受けた工場を海道氏の父親が買い受け、昭和28年に木造の三連を増築して、東洋紡織工場として稼働を始めた。広い工場内には50台もの織機が置かれ、富士絹などを製織した。工場が操業を止めたのは昭和43年。その後は、倉庫などとして使われていた。

人の姿が見られなくなった工場に、数年前から再び人が集まるようになったのは、東京芸大出身のアーティストや学生たちが「桐生再演」の会場として使うようになったからだ。ノコギリ屋根が独自の雰囲気を生み出す空間は、インスタレーションの場となり、作品展示の場となり、市民有志たちの自主映画上映会の会場ともなり、活用の幅を広げている。

平成19年春には、倉庫として使われていた大谷石の三連が明け渡され、ボランティアによる清掃が行われ、自由に使える部分が広がった。

六連のノコギリ屋根工場は市内に三棟しかなく、この工場は最大規模のものである。また、北側にはもう一連の工場があり、アーティストたちのお気に入りの空間だ。

工場に集う若い芸術家や市民、工場を維持し彼らを見守る所有者の温かさが、ノコギリ屋根工場の新たな風景を切り開こうとしている。

